

# eポ<sup>o</sup>ートフォリオの キャリア教育への活用事例案

E-learning研究会報告

城西大学現代政策学部  
石井雅章

# ポートフォリオ利用の目的

- 学生の成果物を蓄積したい
  - － 科目を超えて
  - － 学年を超えて
- 蓄積した成果物を再利用したい
  - － フィードバックの機会の増加
  - － 学生の変化(成長)を認識する

**目的はきわめて単純**

# ポートフォリオ活用の例(案)

- 科目を超えた活用
  - － キャリアデザイン基礎(1年次)での成果物を、フレッシュマンセミナー(1年次)で活用する
    - ・ キャリアデザイン基礎で「自己分析」を記入
    - ・ フレッシュマンセミナーで、「自己分析」を相互評価
- 学年を超えた活用
  - － キャリアデザイン基礎(1年次)での成果物を、ゼミでの就職指導(3年次)で活用する
    - ・ キャリアデザイン基礎で「自己PR」を作成
    - ・ ゼミナールで「自己PR」を作成し、2年間での変化を自覚

# ポートフォリオを作成する①

- eポートフォリオ機能（パターン1）
  - －（○）ユーザーの成果物が一括管理できる
  - －（×）成果物ごとにゴールの設定や評価ができない
  - －（×）当該科目での課題の一覧が確認しづらい
- eポートフォリオ機能（パターン2）
  - －（○）課題ごとに成果物が蓄積される
  - －（○）当該科目での課題の一覧が確認できる
  - －（×）ユーザーの成果物を一括管理できない
- 共通の課題
  - －（×）他コースへコピーもしくはリンクできない
  - －（×）他ユーザーの成果物をどのユーザーも参照できる

# ポートフォリオを作成する②

- 学習カルテ

- － (○) 当該科目での課題の一覧が確認できる
- － (○) ユーザーの成果物が一括管理できる
- － (○) 課題ごとに成果物が蓄積される
- － (○) 他コースへコピーもしくはリンクできる
- － (×) 他ユーザーの成果物を参照できない
- － (×) 成果物を相互評価できない

# 目的の達成度合い

- 成果物の蓄積
  - － 現状では、学習カルテ機能のほうに適している
  - － 蓄積の方法については工夫が必要（次スライド）
- 成果物の再利用
  - － コースを超えた活用にはコピーもしくはリンク機能
  - － ルーブリック（とくに相互評価）は有効
  - － テスト／アンケート機能との連携が有効

**蓄積と再利用は分けて考えたほうがよい  
まずは、蓄積することが重要**

# 成果物の蓄積手法

- 成果物の媒体の違い
  - キャリアデザイン基礎
    - 紙、マークシートでの課題提出が主である
  - フレッシュマンセミナー
    - 紙、デジタルデータ混在

- 授業形式の違い
  - キャリアデザイン基礎
    - 大教室(約300人)
    - 講義＋作業形式
  - フレッシュマンセミナー
    - PC教室と小教室利用が混在
    - さまざまな授業スタイルが混在

一斉に説明、作業

フィードバック  
相互評価  
ふりかえり

**欲張らず科目の特徴を活かした内容に絞る**

# 紙媒体への対応

- 学生側で対応する
  - － PCで入力しなおす
- 教員側で対応する
  - － スキャナでの読み取り
  - － 規則的なファイル名付けと保存
  - － (×)ファイル名をユーザー名をマッチングさせて、ポートフォリオに自動アップロード

**管理者から一括アップロードができれば・・・**



**御清聴ありがとうございました**